

指定校番号	28068	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	廣澤伸高	生徒指導主事	駒木 忠
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『ハッピータイム』

取組のねらい『キーワード リーダーの育成と仲間意識の向上』

- ・児童会執行部と他の6年生全員の主体的活動を促し、庄原小学校を盛り上げようとする自覚や態度を養う。
- ・庄原小学校の一員であること、仲間と共に成長していくことを意識させ、所属感を高める。

取組の具体的内容『キーワード 異学年交流』

- ・児童会執行部が話し合い、1年生から6年生まで全員が楽しめる児童会行事を「ハッピータイム」と命名し立案した。児童会執行部が他の6年生に企画を呼びかけ、実行することになった。
- ・まず6年生のみの話し合いで、6年生リーダー・副リーダーを決定した。各班3～4人の6年生が班活動の内容を話し合い決定した。
- ・各学年の児童を班分けして縦割り班を結成した。
- ・月に1回行うハッピータイムと学期に1回行うロングハッピータイムを企画した。ハッピータイムは各班の班遊びを行った。ロングハッピータイムは、「1学期・校内ミニウォークラリー」「2学期・しょうばら GO」を行った。
- ・班活動中にトラブルが発生した場合は、6年生を中心に話し合い活動を行った。
- ・活動の最後には「反省と振り返り」の時間を設け、次回への見通しをもたせた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的・自治的活動の活性化』

6年生リーダーと班活動の内容の決定 縦割り班の結成

- ・児童会執行部や友達に任せることなく、自分が主体となって積極的に意見を出し活動を計画したり運営したりするために、6年生一人一人がリーダーや副リーダーの役を担う。
- ・縦割り班結成時は、各学級2名程度の定員になるように分け、一つの班に全学級の児童が所属するようにする。

班活動（班遊び）

- ・ドッジボール、かくれんぼ、だるまさんがころんだ等、特別ルールを設定するなど「1年生から6年生まで全員が楽しめる」という視点で6年生が考える。



(班遊びの内容をカードに書いて説明)



(1年生から6年生まで全員が楽しめる遊び)

全校の活動（ミニウォークラリー大会）

- ・6年生が総合的な学習の時間、「しょうばら GO ふるさと庄原のよさをゲット&アピール」で学んだことをハッピータイムで活用する。6年生がプレゼンターとなり、他学年に、総合的な学習の時間に調べたことをクイズ形式で出題する。1年生から5年生は、グループごとに次のポイントへ移動しふるさとのおよさについて発表を聞いたり、次の問題に挑戦したりする。



(6年生が出題し、他学年が考える)



(調べたことを模造紙にまとめ分かりやすく発表)

話し合い活動

- ・班内でトラブルが発生した場合、6年生が中心となり話し合い活動を行う。各班に担当職員は配置するが、6年生が主導し、話し合いの必要性や内容を判断して行うようにする。

反省と振り返り

- ・班活動後は、良かった点や直した方がよい点について班ごとに振り返りをさせる。それをもとに、6年生のリーダーと副リーダーが次の活動の計画を立てる。

取組の成果(効果)『キーワード 達成感と自覚』

- ・開始当初は、6年生同士の話し合いもまとまりにくく、他学年に話したり説明したりすることにも困難性が見られた。しかし、回を重ねるごとに自分の意見を言ったり、他学年に自信をもって説明したりすることができる児童が増えてきた。他の行事や普段の生活においても、「自分の役割を果たす」「原宿の手本となる」自覚や態度が見られるようになってきた。例えば、複数学年が行うそうじ場所(児童玄関げた箱)で、他学年と協力したり的確な指示を出したりしながら「もくもくそうじ(本校が取り組んでいる、黙って時間いっぱいそうじを行う合言葉)」に取り組めた。
- ・6年生の自信をもった表情や態度を見た他学年の児童の中に、「自分もやってみたい」「6年生ってカッコいいな」と感じる児童が増えた。
- ・異学年交流を進めたことで、学校に安心感をもって登校できるようになってきた。学校評価児童アンケートにおいても「学校、学級が楽しく安心できるか」という問いに9割以上の児童が肯定的回答をした。

今後の展開『キーワード 継承』

- ・ハッピータイムなどの児童会行事を継続していくとともに、そうじや通学班での登下校など、日々の生活の中でリーダー性が発揮できるよう働きかけていく。
- ・児童会活動をリードしていく高学年の自覚を促す。
- ・現執行部の児童が、次の学年や次期執行部に児童会活動の目的や目指す学校像を伝えていく。

他校へのアドバイス『キーワード 自主的な活動』

- ・児童会執行部のアイデアを尊重し活動を仕組んでいくことで、取組を活発にしていくとともに、同学年の児童会執行部以外の児童も活動の中心に据えるようにしていくとよいと思います。
- ・異学年集団をつくり、計画的、継続的に活動を行うようにすると、他学年への接し方や声かけの仕方を考え実践する機会が増えると思います。
- ・総合的な学習の時間に学んだことを他学年に発信していく場としても有効です。学んだことが行事に活用されると、「次はこの視点で…」「次はこの課題に…」というように、主体的に学習に取り組む姿勢にも現れました。